

7農総試第102-11号
令和8年1月30日

関係各位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和7年度病害虫発生予報第11号（2月）

令和7年度病害虫発生予察特殊報第5号

担当 当 環境基盤研究部病害虫防除室
電 話 0561-41-9513
ファックス 0561-63-7820

令和7年度病害虫発生予報第11号（2月）

令和8年1月30日
愛知県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
タマネギ	白色疫病	やや少ない	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の降水量は少ない	±
	ベと病	やや少ない	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の降水量は少ない	±
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	すすかび病	少ない	県全域	1月下旬の発生量は少ない	-
	うどんこ病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや少ない	県全域	1月下旬の発生量はやや少ない	-
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	1月下旬の発生量はやや多い	+

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
	うどんこ病	少ない	県全域	1月下旬の発生量は少ない	-
	灰色かび病	やや少ない	県全域	1月下旬の発生量はやや少ない	-
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
	うどんこ病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	少ない	県全域	1月下旬の発生量は少ない	-

・防除対策

[ナス (施設) ・ミナミキイロアザミウマ]

日射量が多くなり、施設内の気温が上がってくるとミナミキイロアザミウマの増殖スピードが速まります。令和7年12月3日発表の「ミナミキイロアザミウマ情報第2号」を参考に防除を行いましょう。

・留意事項

タマネギのべと病、白色疫病は、暖かく降水量が多いと発生しやすくなります。天候やほ場の状況に注意し、予防散布を行いましょう。

ナス黒枯病が発生しているほ場があります。発生を確認したら、罹病葉をできるだけ取り除きパレード20フロアブルなどで防除しましょう。

イチゴのハダニ類は県全域では少発生ですが、一部で多発しているほ場があります。多発すると防除が困難になるので、早めに防除しましょう。天敵を導入している、あるいは導入を予定している場合は、それらへの影響日数に注意して農薬を選定しましょう。

果樹

・留意事項

カンキツ黒点病の病原菌は枯れ枝で越冬し、次作の第一次伝染源になります。せん定時に枯れ枝の除去を徹底し、本病の越冬伝染源（第一次伝染源）を減らしましょう。

カンキツおよびナシ、モモ、カキにおいて、チュウゴクアミガサハゴロモの発生が見られています。本虫は極めて広食性で、多種の果樹や樹木類において寄生が報告されています。本虫は卵で越冬します。白い蠟物質で覆われた産卵痕を確認したら、せん定時に枝を切除し、ほ場外に持ち出して土中深くに埋却するなど適切に処分してください。詳細は、令和7年11月4日発表の「令和7年度病害虫発生予察特殊報第4号」を参照してください。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台 1月29日発表）

<特に注意を要する事項>

向こう1か月程度は、降水量が少ない状態が続くでしょう。

<予想される向こう1か月の天候>

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率>

[気温] 低 い : 30% 平年並 : 40% 高 い : 30%

[降水量] 少ない : 50% 平年並 : 30% 多 い : 20%

[日照時間] 少ない : 20% 平年並 : 30% 多 い : 50%